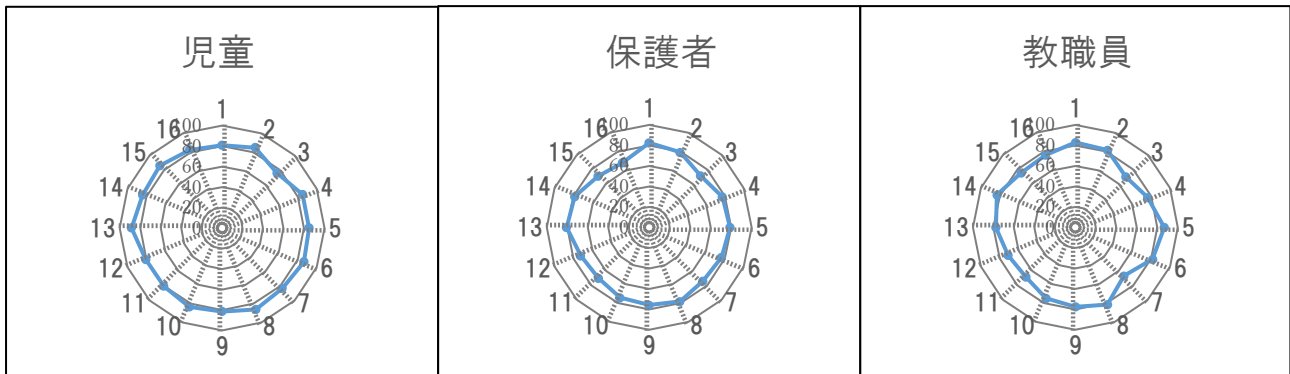


令和4年度 浜松市立竜禅寺小学校 学校評価報告書

1 自己評価

(1) アンケート結果



「子供たちに育てたい能力の育成指標」のアンケート項目

仲間をつくろう (人間関係形成・社会形成能力)	自分を高めよう (自己理解・自己管理能力)	問題を解決しよう (課題対応能力)	夢に近付こう (キャリアプランニング能力)
<b>1 他者の個性を理解する力</b>	5 自己の役割の理解	<b>9 情報の理解・選択・処理</b>	<b>13 学ぶこと・働くことの目的や意義の理解</b>
2 コミュニケーションスキル	<b>6 自己の動機付け</b>	10 課題発見	14 生き方の多様性の理解
3 リーダーシップ	7 忍耐力	11 計画立案	15 将来設計1 (見通し)
4 協調性・協力性	8 主体的行動	12 実行力	16 将来設計2 (実践)

※太字は令和4年度の重点項目

(2) 考察

児童全体では、それぞれの項目において75～88%程度達成していることが分かり、学校生活において、育まれるべき資質・能力を身に付けてきたという満足感が表れているものと思われます。特に、本年度の重点項目である「6 自己の動機付け」や「13 学ぶこと・働くことの目的・意義の理解」では、3年間高い数値を維持しています。これは、児童が、育成指標「〇年生のみんなに頑張ってもらいたい目当て」を基に目標に掲げている内容を捉え、自分の到達イメージを持って学習に取り組んだり生活したりしてきた成果であると考えます。昨年度まで高学年のみで児童の達成度として高い数値が出にくかった「15 将来設計1 (見通し)」「16 将来設計2 (実践)」について、低・中学年に指標を追加し取り組んだところ、ほとんどの学年で昨年の数値を上回り、児童全体では6～8%上がりました。低・中学年の児童も指標の内容を捉え、キャリアプランニング能力を高めることができたと考えます。また、保護者の数値は、全16項目において昨年度の数値より2～10%上回りました。お子さんの学校での取組の様子を参観会や行事で見ていただいたり、便りやキャリア・カウンセリング、キャリア・パスポート等でお伝えしたりしたことが高評価につながったのではないかと推測されます。また、昨年度までは、実家庭の保護者に中学年の指標を基にしてアンケートを実施していましたが、本年度は、お子さんごとにお子さんの学年の指標を基にして実施したことによって、達成度の判断がしやすくなり、お子さんの頑張りが数値となって表れたのではないかと考えます。引き続き、お子さんの学校での取組の様子を具体的に伝えていく必要があると考えています。

一方で、「3 リーダーシップ」は、昨年度と同様、児童と保護者、教職員ともに、数値が低い結果となりました。新型コロナウイルス感染症予防を念頭に置き、方法を検討して可能な範囲内で他者との交流活動を実施しましたが、リーダーシップの力を発揮することができたという実感を持つことが難しかったのではないかと推測されます。今後も引き続き、新しい生活様式の中で、方法や方策を十分に検討して教育活動を設定し、他者との関係の中で、児童が人間関係形成・社会形成能力の高まりを実感できるようにすることが大切だと思いました。「7 忍耐力」についても児童と保護者、教職員ともに、数値が低い結果となりました。「6 自己の動機付け」の成果として自分の目標を設定することはできても、それに向かって最後まで努力したり自分の取組を粘り強く修正・改善したりすることには、課題があると捉えている実態が明らかになりました。

2 学校関係者評価

2月20日(月)に開催した学校運営協議会において、自己評価結果及び考察について委員に報告し、以下のような意見をいただきました。

- ・ 授業において、グループで討議する場を積極的に取り入れるとよいと思う。
- ・ 新型コロナウイルス感染症予防により、放課後に児童同士で遊ぶ機会が減ったようだ。ソーシャルスキルについて教師も児童も学ぶ機会を設定し、具体的に取組を進めてほしい。
- ・ コロナ禍で様々な人と会う機会が制限され、以前児童ができていたことができなくなっているように思う。コミュニケーションスキルやリーダーシップの力を高めるために、体験活動やイベントなど、できることを実施してほしいと思う。

### 3 今後の教育活動について

今回の振り返りアンケートの結果と学校関係者評価を基にして、本校の教育目標「夢を持ち ともに輝く」を実現するための今後の教育活動について検討し、来年度の重点項目を以下のように定め、改善を図りたいと思います。

#### (1) 仲間をつくろう（人間関係形成・社会形成能力）

##### ○「仲2」 コミュニケーションスキル

本年度は、「仲1」他者の個性を理解する力を重点項目として取り組み、学期に1回ペア学年交流の活動を設定したり、可能な方法で交流活動を実施したりしました。また、児童一人一人を認め、より良い関係を築くためにドラゴン賞を活用した教職員による児童の良い行いの称揚を年2回から通年に変更して行ったり、児童同士で記述した「良いこと見付け」の用紙を道徳コーナーに掲示したりして、他者の個性を理解する力を高めてきました。

来年度は、児童が友達の良いところを見付けられるようになった力を生かし、多くの人とコミュニケーションをとれるようになってほしいと考えました。そこで、「仲2」コミュニケーションスキルを重点として取り組んでいきたいと思います。授業では、目的や方法を明確に示し、必要感を持って考えを交流する活動を設定していきます。今年度同様、学期に1回のペア交流を継続するとともに、各種行事でも学年団での活動に取り組み、授業でも異学年児童を伝える相手とする言語活動を設定していきたいと思います。また、教師と児童同士がそれぞれ行ってきたドラゴン賞と「良いこと見付け」を一本化し、見付けた児童の良い行いについて称揚する言葉をカードに記入し、直接言葉掛けしながら渡す方法に形を変えて取り組んでいきたいと思います。

#### (2) 自分を高めよう（自己理解・自己管理能力）

##### ○「自3」 忍耐力

本年度は、「自2」自己の動機付けを重点項目として取り組んできました。文章表現を修正・改善した育成指標を基にオリエンテーションにおいて1年後になりたい自分の姿を思い描き、その姿に近づくために生活の目当てやキャリア・パスポートを活用しながら見通し、振り返る活動を繰り返してきました。その結果、アンケートの児童の数値は、3年連続で約87%となり、自己の動機付けの力の高まりを感じています。

アンケート結果から、自分の目標を設定することはできても、自分の取組を修正したり工夫したりして粘り強く改善することには、児童と保護者、教職員ともに課題があると捉えていることが分かりました。そこで、来年度は、「自3」忍耐力を重点として取り組んでいきたいと思います。これまでも行ってきた見通し、振り返る活動の中で、日常的な振り返りを組み込み、自分の目標や取組を見つめ今後の取組方を見通したり、最後まで粘り強く取り組むための方法を教師と共に考え明確にして実行したりしていけるようにしたいと思います。また、やり遂げたことを価値付けたり認めたりすることができる場を確保し、次も修正・改善しながら粘り強く取り組もうとする意欲を高めたいと思います。

#### (3) 問題を解決しよう（課題対応能力）

##### ○「問1」 情報の理解・選択・処理

本年度は、「問1」情報の理解・選択・処理を重点項目として取り組んできました。授業では、情報を精査して考えを形成する学びが実現できるように授業改善に取り組んできました。また、一人一台のタブレット端末を効果的に活用できるように環境整備を進め、学びの充実を図ってきました。タブレットを活用した学習についての児童のアンケート結果の数値が約93%であり、高い達成感を味わっていることが分かりました。

そこで、来年度も引き続き同項目を重点として取り組んでいきたいと思います。情報の理解・選択・処理の力が児童に身に付くように、情報教育全体計画や各学年の年間指導計画の修正・改善・共通理解を図ったり、効果的な活用法の研修を実施したりして、児童のICT活用を支える教員の指導力の向上に取り組んでいくとともに、ICT環境整備をさらに進めていきたいと思います。

#### (4) 夢に近付こう（キャリアプランニング能力）

##### ○「夢2」 生き方の多様性の理解

本年度は、「夢1」学ぶこと・働くことの意味・意義の理解を重点項目として取り組んできました。授業では、身に付ける力を明確にして到達イメージや学習に対する目的を持てるようにしました。また、学習内容について、今取り組んでいる学習が何につながり、それが将来の自分にどうつながっていくのかを児童が明確にできるように意識して教育活動に取り組んできました。その結果、振り返りアンケートの児童の数値は、昨年度から引き続き本年度も16の項目の中で最も高く、約88%となり、児童のキャリアプランニング能力の高まりを実感しています。

来年度は、「夢2」生き方の多様性の理解を重点項目とし、「仲2」コミュニケーションスキルの育成と関わらせ、毎日の学校生活や授業を通して児童がいろいろな他者とコミュニケーションをとりながら、様々な考え方や取組方があることを受け止め、理解し、認め、広い視野を持って共に生きていけるようにしていきたいと思います。そのために、学級活動や学校行事等の特別活動では、互いの長所や個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視し、活動を設定していきたいです。また、生活科や総合的な学習の時間、特別活動等における体験活動の機会を確保し、地域・家庭と連携・協働して多様な他者と協働することの重要性を実感しながら理解できるようにしていきたいです。